

7 九州大学歯学部小児歯科における 全身麻酔下歯科治療について

○古市幸秀、阿部和久、立川義博、二木寿子
国武哲治、中田 稔

九大・歯・小児歯

九州大学歯学部附属病院小児歯科外来を訪れる患者の中には、精神発達遅滞や脳性麻痺などの中枢神経系の障害児ならびに心疾患や血液疾患やその他の全身疾患を有する障害児も多数含まれている。そのような障害児の場合にも、基本的には健常児との区別なく歯科診療を行っている。しかし、協力度が著しく不良で、抑制治療などの方法を用いても外来診療では十分な治療結果が達成できない症例や、家庭の事情や地理的条件で通院困難な症例などでは、本学口腔外科および歯科麻酔科の協力を得て、入院後、全身麻酔下に集中歯科治療を行っている。

また、当科では、肢体不自由児施設である福岡県立粕屋新光園の小児歯科部門を担当し、さらに福岡市立こども病院の歯科管理も委ねられている。上記の施設においても、必要に応じて全身麻酔下にて集中歯科治療を行っている。

そこで今回、今後の全身麻酔下歯科治療の向上を目的として、昭和56年3月から平成3年3月までの10年間に当科において全身麻酔下歯科治療を行った男子54例、女子31例、計85例について、小児歯科で用いられている処置記録をもとに、平均年齢、障害の種類、適応理由、地域別来院患者の分布、齲蝕罹患状況、処置内容に関する臨床統計的な検討を行った。その結果、若干の知見を得たので報告する。